

# 研究者紹介

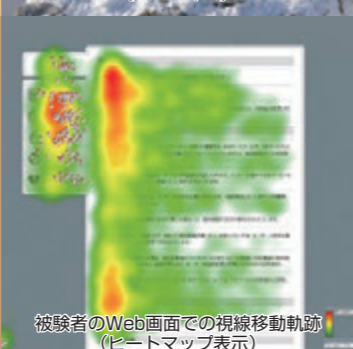
本研究を中心になってすすめる、札幌市立大学デザイン学部のスタッフの自己紹介です。

## 多世代・多セクター・多コミュニティの交流

統括

多世代・多セクター・多コミュニティが交流し、個性を磨き合うことで、人の社会はイキイキと輝き出すはず。そのための有効なプログラムとマネジメントの方法論を構築することが、本プロジェクトの狙いです。

運見 孝  
ハスミ タカシ  
(研究代表者)



統括

## 「しあわせ」目指して手をつなごう

都市化によって便利にはなったものの、失われたものも少なくありません。人々のきずな、ふるさとの原風景、脈々と継承されてきた歴史と文化、などなど。地域に残っているこれらの財産と、都会の利便性をともに享受してみんなで「しあわせ」になろうという、なんとともげいたくなプロジェクトが始まりました。みなさまもぜひ一緒に「しあわせ」を目指しましょう！

酒井 正幸  
サカイ マサユキ  
(研究分担者)



地域創成先行事例分析班  
暮らし満足度定量化手法開発班

私の研究キーワードは、数理統計手法による感性情報の評価・分析、情報デザイン、デザインの価値測定・分析です。本事業では、札幌市や道内市町村の住民意識・暮らし満足度などの調査分析を通して、地域への愛着・希望を探りたいと考えています。

## 住民の地域への愛着・希望を探りたい

城間 祥之  
シロマ ヨシユキ  
(研究分担者)



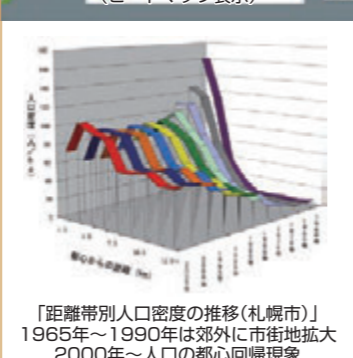
地域創成先行事例分析班  
暮らし満足度定量化手法開発班



中原 宏  
ナカハラ ヒロシ  
(研究分担者)

## 今後のまちづくりの視点は、空間・時間・人間の多様性

「人がまちを創り、まちが人を創り育てる」が信条です。人口減少時代のまちづくりでは、従来の拡大・拡散型から凝縮・成熟型への大きな方向転換が求められています。新しい計画理念や手法に関する研究を、地域と連携して推進します。



## 炭鉱の記憶をキーワードに炭鉱遺産を活用したアートによる地域創成

これまで「赤平炭鉱アートプロジェクト」(2004)、「幌内・布引アートプロジェクト」(2009)、「夕張清水沢アートプロジェクト」(2011)、「奔別アートプロジェクト」(2012、2013)を開催してきました。一連のアートプロジェクトは、南北80km・東西30kmにおよぶ広大な空知産炭地全域の主要な炭鉱遺産を活用した地域創成を組織的計画的な視座で実施しております。

上遠野 敏  
カトノ サトシ  
(研究分担者)

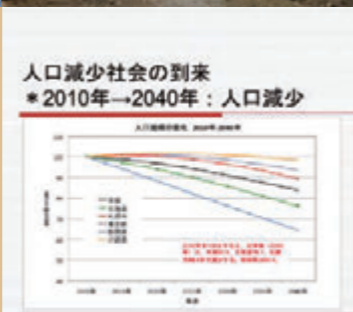


原 俊彦  
ハラ トシヒコ  
(連携研究者)

## 人口減少と超少子高齢化は止まらない。だからこそ！

長年にわたり地域人口の研究をしてきましたが、「人口減少と超少子高齢化は止まらない」というだけではダメだと思っています。「だからこそ、できること、すべきこと」をいっしょに考えてみませんか？

地域創成先行事例分析班  
暮らし満足度定量化手法開発班



# 研究フィールド

札幌市は全国で5番目の人口を有する北海道最大の都市。本事業では、芸術文化活動の拠点である札幌芸術の森にある「芸術の森キャンパス」を中心に、その活動を行ないました。

なおH25年度は、北海道 札幌市の中央区・南区、三笠市、寿都郡 寿都町、虻田郡喜茂別町、沙流郡平取町での活動を行うことができました。



札幌市立大学 SAPPORO CITY UNIVERSITY

大学本部・デザイン学部・デザイン研究科  
Tel.011-592-2300(代表) Fax.011-592-2369  
http://www.scu.ac.jp/

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A)

タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究  
研究代表者：運見孝 (研究経費：34,100,000円)  
http://tss.scu.ac.jp/



日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A)

# タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究

# 2013 report



札幌市立大学  
SAPPORO CITY UNIVERSITY

# 研究概要と予想される成果

## 研究概要

本研究は、地方市町村と大都市の双方における暮らしの質の維持、および魅力創出のための手法の構築を目的とするものです。

地域衰退の先行事例になる可能性のある北海道地域の地方市町村と大都市を対象に、定量的な調査分析を行い、それぞれの魅力と課題を明らかにします。この分析結果を踏まえ、井戸端寺子屋の運営を通じ、地域伝道師を育成し、かつ、地方市町村と大都市を相補・連携させる「タイム・スペースシェアリング」手法による地域創成活動の実証実験を行います。また、「暮らしの満足度(ウェルネスデザイン)」評価によってこの実証実験の効果検証を行います。さらに、地域創成のための社会・文化・経済的支援に関する学問領域を「地域創成デザイン学」と名付けて体系化し、関連教育プログラム構築・実践を行います。

## 予想される成果(仮説)

### ① 地域創成に役立つArt&Designの4つの力

Art&Designの「爆発力」を活用して地域にある限られたリソース発見を通して  
**0状態から何かを一気に創出する起爆力**

Art&Designの創造活動により得られる「ワクワク感」を一般の人に体験させることを通じて  
**人と人の質の高い交流を促し心をつかむ求心力**

## スケジュール

### 1年目(H25年度 成果概要)

H25年度は、北海道 札幌市の中央区・南区、三笠市、寿都郡寿都町、虻田郡喜茂別町、沙流郡平取町でTSSの仮説構築を目的とした活動を行いました。この活動の中から、Art&Designの力に含まれる地域創成に役立つ4つの力と、地域創成のキーとなる4つの要素が仮説として構築されました。本仮説の検証が今後の課題となりました。

### 2年目(H26年度 実施概要)

**地域伝道師の育成**  
(コミュニティデザイナー)  
**街の井戸端寺子屋の運営**  
(フューチャーセンター)

**リタイヤ世代を対象としたタイム・スペースシェアリング実証実験**

### 3年目(H27年度 実施概要)

**教育プログラム化**  
**学問としての体系化**

### ② 地域創成のキーとなる要素



#### 【人の魅力】

「よその・わかのもの・ばかもの」と言われることもあります。地域興しのエンジンとなる人材といえる【人の魅力】が地域創成の核になります。アーティストに定住を促し、アーティストのアート活動が外部の人を喚ぶなどの事例が挙げられます。



#### 【事の魅力】

地域に古くから根付いている伝統芸能や祭りなどのイベントといった【事の魅力】が地域創成の核になります。廃校となった小学校校舎などで現代風にアレンジした祭りを開催することにより外部の人を喚ぶなどの事例が挙げられます。



#### 【場の魅力】

例えば火山、湖畔の風景、強風、貴重な動植物など、景勝地や歴史的遺産などの見どころといった【場の魅力】が地域創成の核になります。炭鉱跡地など地域の遺産と言え、アートイベントを開催し外部の人を喚ぶなどの事例が挙げられます。



#### 【物の魅力】

固有の風土から生み出される農産物や工芸品、新規開発された特産品といった【物の魅力】が地域創成の核になります。駅旅の対象として問題視されてきた産物、産物を活かした商品開発ワークショップに発展させ、その開催を通して外部の人を喚ぶなどの事例が挙げられます。

### ③ 結論(予想される成果)

|                                   | 地域住民                  | 大学                              | 行政              | 短期滞在者(観光客)                          | 長期滞在者(シニア者) |
|-----------------------------------|-----------------------|---------------------------------|-----------------|-------------------------------------|-------------|
| <b>[A] TSS魅力発見期</b><br><b>交流期</b> | 地域の魅力の素の収集            | アートカデザイン力による集客                  | 交流の場の提供         | 短期イベントへの参加<br>↓<br>感動体験             |             |
| <b>[B] TSS魅力育成期</b><br><b>創造期</b> | 地域の魅力の素の創造            | アートカデザイン力による集客<br>地域の魅力の素の評価/創造 | ビジネスソースとしての評価   | 短期イベントへの参加<br>↓<br>該当地域の応援団         |             |
| <b>[C] TSS魅力発信期</b><br><b>発信期</b> | 地域の魅力を活用した運用テスト(サービス) | サービス運用のためのアートカデザイン力の活用          | 運用テストのインフラ的サポート | サービスの利用体験<br>↓<br>該当地域の応援団<br>口コミ担当 |             |
| <b>[D] TSS循環期</b><br><b>運用期</b>   | 地域の魅力を活用した経済活動        |                                 | 経済活動のサポート       | 観光リピーター                             | 地域への定住      |

# H25年度の成果



### 奔別アートプロジェクト2013 (主担当:上遠野敏)

2009年から実施している北海道三笠市旧住友奔別炭鉱・選炭施設(石炭積み出しホッパー)を、アートの力で価値と記憶を蘇らせ、炭鉱の記憶と人々を繋ぐプロジェクトを継続実施しました。会場整備、設営も含めたアートイベントの運営、来訪者に対するガイドなど総合的な実践活動であり、将来多くの地域が直面するであろう地域存続の危機を、アートによる地域再生のストーリーとして構築できると考えます。



### ミライサイクルプロジェクト —自転車dayにて出展した空間作品群 (主担当:山田良)

札幌市中心エリアの大通地区にて空間デザイン作品群を展示しました。未来の自転車利用を考えるイベント「自転車day」にて出展したもので、道ゆく人々が体験＝試乗できる作品たちです。計4種類、8点の空間からなり、自転車に乗ったままの姿勢でカフェ空間となる「自転車カフェ」「自転車スタンド」など、都市部における自転車利用促進と未来の可能性を考えました。



### グリーンカーテン栽培による「まちのTSSデザイン」

札幌市南区(芸術の森地区)では、地域住民が交流しながら、グリーンカーテン栽培によるまちのTSSデザインを行いました。参加した全世帯が愛着をもってゴーヤなどを育て、来シーズンも栽培したいという意欲が見られました。参加した過半数の住民が植栽への興味に加えて、地域交流に意欲があることがわかりました。今後は地域内での交流を超えた他地域へのプロモーション活動としてTSSを展開します。(主担当:斉藤雅也)



### 寿都町:風ぐるまアートプロジェクト (主担当:上田裕文)

「風の町」寿都で、千の風ぐるまの風景をつくるアートプロジェクトを行いました。地域の資源である風を可視化するだけでなく、子供からお年寄りまで誰もが気軽に参加できる、地域づくりのきっかけとなることを目指しました。誰もが一目で分かる町の風景は、身近な生活空間への新たな気づきを促すだけでなく、地域の外へと発信できる町の魅力の再評価にもつながりました。風ぐるまの輪をさらに広げる計画が現在進行中です。



### 平取町:鹿革商品開発プロジェクト (主担当:上田裕文)

地域の深刻な課題であるエゾシカの被害、見方を要えれば地域の資源にもなり得ます。鹿革を使った商品と、地域の人々と学生達で共同開発しています。商品の製造プロセスが地域内の文化や地区をつなぎ、さらには地域を越えて商品が人々をつなぐことを目指しています。町民や出身者が地元を誇り、外に直接発信できるようにとの願いも込め、名刺と名刺入れのデザインを現在行っています。



### 「喜茂別だより・寿都だより」弁当 (主担当:片山めぐみ)

お弁当を開けると広がる景色。地元の食材を使ったお料理の味と香り。QRコードを読み取ると聞こえてくる海や川の音。お料理を食べ進めると出てくる探検マップ。新しい地域情報発信のプロジェクトとして、札幌市立大学と光塩学園女子短期大学の学生達が、喜茂別町民と寿都町民の協力を得てパッケージとメニューのデザインを考えました。このアイディアは、「購入者の食べたい時間を買う」ことにもつながり、地域の効果的な広報戦略と考えられます。



### 魅力発見大規模調査 (主担当:柿山浩一郎)

北海道札幌市中央区(7050戸)、北海道札幌市南区(3000戸)、北海道三笠市(4391戸)、北海道寿都郡寿都町(1450戸)、北海道沙流郡平取町(2227戸)、北海道虻田郡喜茂別町(1033戸)の計19151戸に郵送によりアンケート用紙を配布しました。結果、合計1,189の回答を得ました(回収率6.2%)。H25年度は本回答のデータを入力するプロセスまでしか進みませんでしたが、今後、本データの分析を進め、地域創成に有用な知見を得られると予想しています。

# 研究者紹介

本研究を中心になってすすめる、札幌市立大学デザイン学部のスタッフの自己紹介です。



感性や認知は心豊かな生活を送るために必要な脳の機能です。その仕組みの解明が必要ですが、複雑さゆえ、科学的な研究は簡単ではありません。基本的な事から少しずつ解明していきたいと思えます。

## 感性や認知を科学的に解明したい

石井 雅博  
イシイ マサヒロ  
(研究分担者)



## 空間デザイン作品の制作を通じて、地域の風景を見直し、あらたなバリューを育みたい

地域にはさまざまな魅力が潜在しています。こと風景に限っても同じことが言えます。空間に関するデザイン作品、環境芸術作品を制作・設置し、普段気付きにくい地域の風景の魅力を知るきっかけの場づくりを試みます。

山田 良  
ヤマダ リョウ  
(研究分担者)



大都市(札幌市)の魅力分析班

## 住まい手主体の「環境創り」こそ地域創成デザインの鍵

「健康で心地よい住まいの環境とは何か？」を、物理環境・住まい手の生理、心理の面から明らかにしています。住まい手自らの体感が伴う「環境創り」こそ、魅力ある暮らしには不可欠なことと考えています。

斉藤 雅也  
サイトウ マサヤ  
(研究分担者)



大都市(札幌市)の魅力分析班

## 風景からの故郷(くに)づくり

どんな地域にも、誇れる宝が埋もれています。そんな宝との特別なつながりが、地域を「故郷」へと変えていきます。住み手にとって当たり前になっている地域の誇りを掘り起こし、風景として共有することが故郷(くに)づくりの第一歩です。

上田 裕文  
ウエダ ヒロフミ  
(研究分担者)



地方市町村の魅力分析班

## "Be Happy!"のしくみを生み出したい

「環境心理学」と「建築計画」を専門にしています。人々のワクワクを科学的に理解し、地域の資源発見や人と人を繋げるお手伝いをしています。寿都町のコミュニティ・レストラン「風のごはんや」(http://kazegohan.sakura.ne.jp)をプロデュースしました。

片山 めぐみ  
カタヤマ メグミ  
(研究分担者)



魅力分析班の

## 日常生活の偽りのない普通のキモチを測りたい

私の研究キーワードは「感性評価」です。簡単に言えば、製品やサービスに対する「好き度合い」を測ることです。本事業では、暮らしの満足度を対象に、日常生活を送る人の素直な気持ちを感じる手法の開発をしたいと考えています。

柿山 浩一郎  
カキヤマ コウイチロウ  
(研究分担者)



視線計測を用いた被験者の興味度の遷移図

地域創成先行事例分析班  
暮らし満足度定量化手法開発班